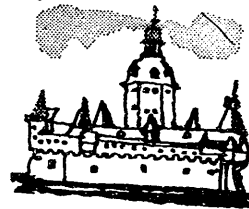


各国のトピックス

社会民主党の 医療報酬改正案

(西ドイツ)



4月初め Travemünde で SPD (社会民主党) 保健政策協議会が開かれ、医師の報酬の低いことが問題とされた。ドイツ病院協会事務長 Wilhelm Adam の説明によると、医師は私的患者からは相応な報酬を受けているが、社会保健の方からは、1診療日当り5.50マルクという「おはずかしいほどの」額しか支払われていないという。この両方に同じ処置をするには、医長、主任医、専門医計21,500につき年額8億5,000万マルクを18億マルクの収入になるよう引き上げることが必要である。それと同時に医長のいわゆる会計権 Liquidationsrecht も廃止せねばならない。

これにより1日平均4.30マルクの増加負担

が生ずることになるが、これは社会保険が負担しうるはずである、とAdamは述べている。

次に連邦保健局次長 Erwin Jahn 教授は医薬品が高価なことに鋭い批判をあげた。その主張によれば、製薬会社が宣伝を遠慮すれば、今より25%は廉くなるはずという。彼は80人の代議員に対し宣伝費が莫大なことを強く攻撃し、この費用の大部分を負担せねばならない疾病保険に対し、その市場影響力を行使すべきことを訴えた。

Jahnの意見では、中立的な専門委員会をつくってすべての医師に医薬品に関する情報を提供する、科学的な情報組織を設けるべきだという。この委員会はまた医薬品の効果につ

いての問題も解決できるはずだ、というのである。

さらにまた医薬品の大量消費を規制するために、医学的には必ずしも必要でない薬品は疾病金庫の支払い義務から除くこととする立法措置をとることを、教授は要求した。

一方これに対し連邦製薬業連盟会長 Hans Harms は、医薬品市場への国の介入に反対し、医薬品市場というのは激しい競争によってはじめて十分に機能するものだと主張した。そして製品について報せ、それを宣伝する自由もまた競争の自由に属しており、医薬品の宣伝は医師の情報にとって不可欠である、と述べた。

また SPD 所属連邦議会議員 Hans Bardens は、ある邦(ラント)の病院建設委員会の設置を、全く勝手なものだ、と批判し、邦は連邦に対し病院建設計画についてほとんど介入させないでにおいて、邦と邦の間の建設計画や財政については連邦が手が出せないようにしている、と述べている。

Die Welt, 5 April 1971.

(安積鋭二 国立国会図書館)